

# 平成 27 年 3 月 22 日放送

## 富山教区 水橋組 玉永寺 石川聖子

三年前、アメリカのコネティカット州にある小学校で銃撃事件がありました。死亡者は生徒と教員合わせて二六人、犯人は事件直後に自分の母親も殺して自殺しました。その後、インターネットで十万人以上が、銃規制強化を訴え、それを受けていくつかの州が銃規制を強化しました。しかし皮肉なことにこの事件以降、これまで以上に幼い子供向けの銃の販売数が伸びたことも事実のようです。またアメリカでは、銃撃事件が年間約一万件あるとのことでした。

安全のために武器を持つ…果たしてそれに終わりが来るのでしょうか？武器をひとたび持ったなら、いつでも人を傷つける準備が調ったということです。そしてその縁が調ったならば、自分がやられる前にやる！殺される前に殺す！ということになるでしょう。次に、何とか自分を守ったはいいが、今度は殺された相手に縁のある人が傷つきます。そして殺した方、殺された方それぞれに縁のある人、どちらにも辛い日々が待っています。それを打破するため、殺された側が復讐心から、殺した側を攻撃し、また傷つく人が増えます。さらにまた縁のある人や第三者などを巻き込んで、危機感から、いのちを守るためと称し、双方武器を持ち出します。そうなると悲しみと憎しみの連鎖は、どんどん広がっていくしかありません。ちなみにアメリカでは人口約三億二千万人に対して、個人の所有物だけで二億七千万丁の銃が存在します。

人間の恐怖心や猜疑心はとどまることを知りません。「自分の身が危ないのではないか？」「自らの命を守るために、何とかして手を打たねばならない…」その考えに囚われ、条件さえ調べば、何をしでかすか分かりません。そのことを『歎異抄』の中で親鸞聖人は「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」と仰せです。一人一人の小さな恐怖心と猜疑心が集まり、そこへ色んな利権や思惑を巻き込んで戦争は起こるのではないかと私は考えます。己の心の暴走、国の暴走、一度走り出したら、止めたくても、もはやそのころには自分では止まれず、後悔しても誰も止めることができないのです。

ではそれ以前に私自身はどうでしょうか？数限りない動物や植物のいのちを、自分自身で手を下すこともなく、たくさんの人たちの苦勞によって、自分のものとしてきました。そのくせ、小さなことに腹を立て、自分ばかりが辛いと嘆き、人の幸せを妬み続けています。数限りないいのちをいただき、いろんな人に助けられ、支えられているにもかかわらず、生きているのが嫌になったりしています。それまで自分のものとしてきた数えきれないいのちを思って、今という時間を大切に生きることも出来ません。それらのいのちを元に戻すことは決して出来ないにもかかわらず…それだけでも罪深いことであるのに、それを恥ずかしいとも思わずに暮らしています。さらに、凶悪な犯罪を、まるで自分は善であるかのように見下し、外に悪を作っています。

そんな私は、自分の心がざわざわすることがあります。それは動物の虐待です。子猫や子犬の手足や首を切断したりする犯罪を聞くと、どうしようもない怒りがこみ上げてきて、虐待した者にも同じ目に遭わせてやりたい衝動に駆られるのです。そしてここでは書けないようなおぞましく残虐な妄想を、虐待した者に対して幾度したかわかりません。沢山の動物実験により生み出された、薬品や化粧品を喜んで使っているというのに…自分にとって嫌いな相手も、何回かで殺したか分かりません。いつもそうした恐ろしい妄想を重ねています。何をしでかすか解らない自分が、いのちをいただくため以外で武器を持ってしまったら…考えただけでも恐ろしいことです。

『仏説無量寿経』には四十八の願いが建てられています。その中の第十八願、「設我得仏 十方衆生 至心信樂 欲生我国 乃至十念 若不生者 不取正覺」とは、すべてのものを救いたいという阿弥陀仏の願いです。そしてそのあとに、「唯除五逆 誹謗正法」と続きます。ただし五逆をおかすもの、仏の正しい教法を謗り、その真実性を否定するものは除く、ということです。仏教で五逆とは、母を殺し、父を殺し、聖者を殺し、仏身を傷つけ、教団を破壊す

る五逆罪のことです。これを聞くと、自分はそんなことをするはずがない、と考えてしまいます。しかし、妄想の中でたくさん命を殺し、傷つけているのは私なのです。縁さえ調べば、いつ実行に移すかわからない私なのです。さらに、だからどうしたっていうんだよ、と開き直って教えを誇っているのです。四十八願のうち、私たち浄土真宗の門徒が「本願」とするこの第十八願だけに、「唯除五逆 誹謗正法」と書かれています。それがまさに、心の中で五逆を犯し、教えを誇り続けるお前こそが救いの目当てなのだ、気づいてくれよという阿弥陀仏の願いなのです。あの人は救われて、あの人は救われないのではないか？そんな議論は何の意味もありません。そのような議論こそ、私の姿を見抜かれているということに、気づいていないからです。阿弥陀仏のころによって私のすがたが常に照らされ続けているのです。この阿弥陀仏のころを受けとめるのは私です。

『歎異抄』によると親鸞聖人は、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」とおっしゃっています。妄想の中でいろんないのちを殺し続ける私、縁さえ調べばいつ恐ろしい行動に出るか解らない私、ほかの誰でもない、これ以外にお前が救われる道がないのだ、と「唯除五逆 誹謗正法」の言葉で突きつけられています。